

多子世帯・二世帯同居・近居に補助

子育てや二世帯同居・近居(直線距離2キロ以内)のためのリフォーム費用などを補助。舞鶴市へ転入する直前に引き続き5年以上京都府外に住所があった場合には各限度額が2倍になります。

【対象】市内に住民票があるか、市内に転居予定で、次の全てに該当する人。

◆子どもが3人以上いる世帯か、新たに二世帯同居・近居する世帯の構成員  
◆申請者と世帯構成員に市税などの滞納がない◆子どもの親権者の年収の合計額が750万円未満◆リフォーム経費を申請する場合は市内に本社(本店)があるリフォーム業者に工事を依頼する

【対象経費】

◆対象者自身が居住する住宅の工事で、子育てが二世帯同居・近居のために必要で、費用が10万円以上かかると来年3月1日(水)までに完了する工事…工事費用の2分の1(限度額100万円)  
◆対象者が子育てが二世帯同居・近居のために必要な住宅を購入…仲介手数料の2分の1(限度額40万円)  
◆対象者が子育てが二世帯同居・近居のために必要な住宅を賃借…仲介手数料の2分の1(限度額5万円)

▼詳しくは、子ども支援課(☎66・1000)へ。

舞鶴市一般廃棄物最終処分場の新たな埋立地が竣工

3月に舞鶴市一般廃棄物最終処分場の新たな埋立地が竣工しました。

本施設は、平成22年に供用を開始しましたが、埋立容量に達する見込みとなったことから、施設の所在する地域の皆さんの理解・協力のもと、既存埋立地の隣接地に新たな埋立地を整備したものです。

資源化できない廃棄物を焼却、または破碎したのち、その焼却灰や不燃ごみを埋め立てるために整備し、ごみ埋立容量10万立方メートル、供用期間は約15年間を予定しています。

整備には、周辺環境が損なわれることが無いよう、遮水シートや漏水検知システムを整備するとともに、近年の集中豪雨にも対応できるように水処理施設の増強や防災調整池を整備しました。今後は、定期的に水質検査を実施するなど、周辺環境を保全し適切に維持管理します。

このような限りある施設をより長く利用できるよう、引き続きごみの減量化や資源化にご協力をお願いします。

▼詳しくは、生活環境課(☎66・1005)

# まいつる元気人

Vol.94

## 若い世代にも林業という選択を 人を育てて山を守る



株式会社モリシオ 取締役 農林事業部 鳴海 将希 さん

モリシオの「かきまなご」

地元舞鶴の森林組合で17年ほど森林整備に携わってきた鳴海さん。組合を退職し、令和3年9月に舞鶴市で初の林業会社である株式会社モリシオを立ち上げた。

「木を切つてほしい」「実家の持ち山を整備してほしい」「動物が山から下りてきて困っている」。

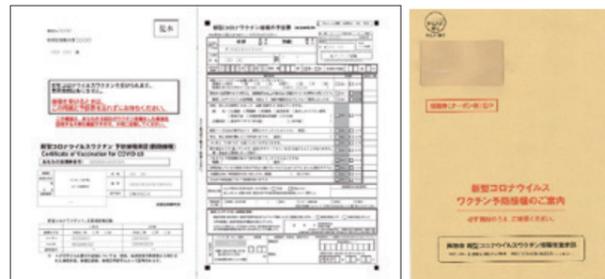
地域の8割を山林が占める舞鶴には林業に関する課題がまだまだたくさんある。手入れされていない山が多い中、昔の人們が長い時間をかけて育ててきた山に手を加え、健全な山に戻すために相談者に寄り添う森林の仕事人、鳴海さんに話を伺った。

「森林組合でできること、会社だからできることがあります。山の所有者と密に触れ合っていきたい、健全な山をもっと作っていきたいと考えました。そのためには融通が利きやすい会社の方が向いていると思います、不動産・建築事業部のもう一人と一緒に会社を立ち上げました」と当時の思いを語る。会社だと山の売買ができるので、相続ができていない山の所有権の整理や手放したい人から山を買い取って、手入れをしているそう。「山を所有することで仕事の年間の経営計画を立て、定期的な雇用の確保にもつながります。また山の手入れには森林組合での経験が役立つことが多く、やってきたこ

### 新型コロナワクチンの接種情報

問 新型コロナワクチン接種コールセンター (☎68・9225、平日9時~17時)

(下コードからアクセス可)などを参考に、接種の効果と副反応などを考慮のうえ、子どもと保護者でよく相談し、接種を受けるかどうか判断してください。



▲接種券付予診票と接種権付予診票送付時の封筒



▲小児接種のイメージ



▲案内動画

※令和4年3月18日時点の情報です。最新情報は市ホームページをご確認ください

◆3回目のワクチン接種について

新型コロナワクチンの3回目接種について、現在、2回目接種を完了してから6か月を経過した対象者に3回目の接種券を郵送しており、接種希望と回答があった人には順次接種日時などの案内通知を発送しています(10月に2回目接種を終えた人への3回目接種券は今月発送します)。

意向調査の回答がまだの人で接種を希望する場合は、早めに意向調査に回答してください。

※接種当日に会場にお持ちいただく接種券付予診票は、事前に意向調査の案内を送った角2サイズの茶封筒に入っています。忘れないように持参してください

※加佐地域の高齢者を対象としていた旧由良川中学校会場での接種は、3月31日で終了しました。今後は、文化公園体育館の接種会場で引き続き接種を実施します(5月末までの実施予定)

※会場までの交通手段を確保できない高齢者へのバスの配車受け付けは終了しました

◆5歳~11歳の接種について

3月23日から、小児(5歳から11歳)のワクチン接種が始まりました。2010年4月生まれ~2017年2月生まれの人への接種券の送付は完了しています(2017年3月以降生まれの人は誕生月の翌月に発送します)。

意向調査の回答がまだの人は、接種についての案内動画

とに間違いはなかったと感じます」と前職の経験が生きる場面が多いそうだ。

森林の環境を整える

「山の中を歩けない状態はもろろんですが、足場に雑草などが無いのも保水力がなくて、荒れているんです」と山の荒れも多様だという。「人間にとって都合が良い山ではなく、動物との共存も必要です。スギやヒノキを山の奥に植えること周りの栄養がとられて雑木が育たず動物の食べ物がなくなるので、食べ物を採り、薪へ降りてきます。スギ、ヒノキは山裾に、実なる木を山奥へ植えることで、人間に必要な木材の伐採、間伐がしやすく、動物は安全な山奥で暮らすことができます。お互いにとって環境の良い山を育てたいです」と話す。

また人間関係の変化も山に影響しているそう。「昔は地域の結束が強く『あの山は〇〇さんのもの』と地域の人々が山の所有者を知っていました。現在は人間関係が希薄になり、山の所有者が分からなくなるところも多いです。これからは複数人が携われるよう山の管理ができる会社が管理や所有をするのが良いと思います。他人の家に木がかかるなどのトラブルも未然に防ぐことができますし、山を資産にもできます」と時代とともに山の管理も変化するようだ。

人が一番の財産

大切なのは地域との関わりと人だという。「地域の山を良くすることで地域が活性化し、まちが良くなります。一つの山でも個人や地区など、所有する人がたくさんいることも多く、まとめて依頼を受けることで新しい道の整備や経費を安くすることもあります。また、若い世代にも林業に興味を持ってもらいたいと思っていて、安全で長く続けられる会社になりたいです。そのためには人が一番大切に、技術を継承し、人を育てることが山を守ることに繋がります」と林業の未来や若者の就業の場にも視野を広げる。まだまだ整備が必要な山は多いが、そこに降り注ぐ木漏れ日はとても暖かい。



▲木を伐採する鳴海さん